

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【名立区】意見交換の内容

開催日：令和 8 年 7 月 21 日（火）

会 場：名立地区公民館

参加者：34 人

（参加者）

週刊誌の記事に、海外資本による土地取得の増加に関する内容があり、その中に妙高高原のことが載っていました。このことに関連して、県をはじめとして、上越市、妙高市、糸魚川市から職員が出向するというプランがあるそうですが、現状はどうなっていますか。海外資本による日本の土地の買い占めについては、私はストップをかけるべきだと思います。

（市長）

妙高市においてシンガポールの外資系企業がリゾート開発をしていることをおっしゃっているのかと思いますが、私が承知しているのは、スキー場の隣接地にホテルや商業施設等を作るという話です。土地を買い占めるといったことは承知していません。実際にまだ計画がはっきりしていない部分もありますが、このプロジェクト自体はそれほど大きい問題はないと思っています。海外資本による土地の取得に関してはいろいろ問題視されている点もありますが、これは国が責任をもって決めるべき問題であり、安全保障上の支障がないか等、政府で対策を取る方針だと承知していますので、国の動向を見守るべきだと思います。

（参加者）

普段、名立区の魅力発信事業を行う団体に携わっております。市長が冒頭にお話しされた「Meet Japan in Joetsu」は非常にいいキャッチフレーズだと思います。私自身もぜひ市長の想いを名立区の魅力発信でつなげていきたいと思っています。関連して、名立区のどの点が魅力で、市長として「Meet Japan in Joetsu」の取組においてどのように名立区を発信しようと考えているかを伺いたいです。昨日、うみてらす名立が 26 周年を迎えました。施設ができた当時は旧名立町で、町の皆さんが一生懸命作り上げてきたものです。現在はうみがたりに次いで年間 30 万人の来場者数を誇る非常に素晴らしい施設でもあります。それ以外にも山と海の両方があるのは市内でも非常に珍しい地域だと思います。市長が名立区をどう見ていて、魅力発信につなげたいと考えているのか、位置づけを伺えればと思います。

（名立区総合事務所長）

名立観光協会がなくなったこともあり、地域協議会では名立区の魅力発信に関して自主的な審議を行っています。

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」 【名立区】意見交換の内容

（参加者）

上越市民ではありませんが、名立区を愛して通っている者です。日本で一番シェアのある最高級のもぐさを作っているもぐさ工場が名立区にあります。私が初めて工場見学に来たのは2年前で、そのときに、このもぐさは名立区のヨモギでできている最高級のもぐさだと知りました。外国産のものもありますが、名立区のヨモギから作られたもぐさが最高のお灸になります。しかし、刈り手が少なくなり、どんどん縮小して、全盛期の何分の一かになっています。ヨモギはたくさん生えているのに、農業がだんだん縮小し、刈り手も高齢化で辞める人が増えており、社長に「あと何年かだ」と言われました。現在、弟子入りして収穫のお手伝いをしています。ヨモギは名立区の宝物なので、これからもずっと守り続けてほしいです。名立区のヨモギを使ったもぐさは世界一だと思っています。それを永遠にこの地域の大事な宝物として発信してもらえたらと思います。

（参加者）

名立園の皆さんからヨモギを葉と茎に分別し乾燥する作業をしてもらうために家族で毎日ヨモギ刈りをしています。今、休耕田が増えています。板倉区でもヨモギを植えていろいろと取り組んでいるので、そういったことが名立区でもできれば雑草が生えなくていいと思います。

（市長）

名立区には海から山まであり、さまざまな魅力に富んだところだと思います。そこを今以上に発信していくのがよいと思います。まず海は、うみてらす名立です。山は森林があり、水源地でもあります。不動山の登山道も整備しています。冬の灯の回廊や、ヨモギや蕎麦もあります。

今、国では地域未来戦略として17項目の産業分野を挙げています。その中にフードテックという分野があります。これは食料をさらにいろいろな技術を使って開発したり科学化したりすることですが、ヨモギもそこに入りそうですよね。ヨモギは食べてもおいしいですし、加工してもっと付加価値のあるものが開発できるといいと思います。県もフードテックに手を挙げています。上越市は昔から発酵のまちと言われています。例えば、野草のエキスを加えたジンを作っている会社が高田地区で頑張っておられます。ヨモギや山菜などもそうした製品に使えるそうです。また「体験する」というのもいいと思います。ただ風景を見るだけでなく、実際に清里区や三和区では農家に泊まっているいろいろな経験をしてもらうといった農泊プロジェクトをNPO法人の皆さんが実施されています。田植えや稲刈りを体験してもらう取組を進めているところがあるので、ぜひ名立区もうみてらす名立や農家に泊まって滞在してもらいながら、そうした体験をしてもらいたいです。

雑談になりますが、先日テレビで見た話で、ある造り酒屋の蔵人が泊まる三畳ほどの部屋に観光客が泊まり、翌日は仕込みを手伝ってもらい、その体験料金として1泊10万円をい

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【名立区】意見交換の内容

ただくというビジネスが紹介されていました。そういう新しい視点で、この名立区の魅力を開発していただけるのもいいと思います。市としても、いろいろなアイデアを出していきたいと思います。

（参加者）

森林組合に携わっており、広葉樹の利用間伐事業をしています。カーボンオフセットで収入が入り、集落が豊かになればというのがきっかけで、約10年間取り組んできました。約70ヘクタールの間伐が終わり、国・県・市から補助金をいただいています。我々が直接手を下すにはボリュームが大きく、外部事業者へ委託しているため組合に残るお金が少ない状況です。その分、いろいろな形で努力しており、今後も継続して頑張っていきたいと思っています。

一番助かるのは地域独自の予算事業を活用して、新潟大学の先生方から資源調査を実施していただいていることです。そうした取組も併せて、集落に収益が還元されて若い人材を育成できればと思い、活動を続けています。引き続き、市の応援をいただけたらと思います。

（市長）

カーボンオフセットの取組については、今お話があったとおり大変頑張っておられます。市として引き続きサポートさせていただきます。

（参加者）

名立区には今、小学校と中学校がそれぞれ1校ずつあります。学校運営協議会に携わってもう10年以上、小中一貫の教育について小学校と中学校と共に考えて活動を続けています。小学校は既に複式学級となっており、両校とも児童・生徒が非常に少ない状況です。そうした中で統合などの議論が出るのは当然だと思います。名立区の場合は、桑取区と合併したところで、互いに通うのが不便な状態になっています。先日、糸魚川市が小中一貫校の検討を始めたという新聞記事を見ました。名立区でも小中一貫校ができないか、お考えをお聞きたいです。

（参加者）

私も地域独自の予算事業を使わせていただいております。体験を伴う子育て世代のイベントを行うなど活動しています。教育の面でいうと、子どもの人口がどんどん減っているのも、その時々に適した子育てができれば一番いいと思います。子育て世代としては、スピーディーな支援が大事だと感じます。上越市は補助金の使い方があまり上手ではなく、もっと有効的に使える方法があるのではないのでしょうか。私は、いろいろな補助制度を調べ、情報を得て、地域独自の予算事業にたどり着きました。それを活用して自分たちで考え、自分たちが

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【名立区】意見交換の内容

楽しむような形やみんなに還元できるような使い方をしているのですが、もっといろいろな人が、いろいろな使い方で補助金を使えて、自分自身が楽しむバイタリティにつながれたらと思います。

教育の面でも使いやすい補助金があるといいと思います。例えば、ランドセルの購入費用に 5,000 円補助が出るといった、端的で嬉しい補助制度があると、子育て世代へのスピーディーな支援としてありがたいです。

(参加者)

私もまだ小さい子どもがいます。来年度から保育園の送迎バスがなくなってしまうそうです。送迎バスがなくなると、子どもを保育園に送るのにどうするか、どちらかが時短勤務にしなければならないか、といった問題が実際に出てきます。そういうところにも補助など何か支援していただけないでしょうか。保育園に近い人は歩いて行けますが、距離が遠くて高齢者しかいない地域になると保育園に通わせること自体が大変になってしまうというのが来年度からの状況です。そういう点でも補助などがあるともっと子育てしやすくなると思います。

(名立区総合事務所長)

保育園の送迎バス廃止について承知しておらず、申し訳ありません。確認させていただきます。この公民館の隣には私立保育園があり、名立区の南部から来る人は送迎バスを使っています。

(市長)

バスがなくなるのですか。

(名立区総合事務所長)

なくなるのは普通のバスではなく、保育園の送迎バスです。

(参加者)

送迎バスの利用者が最低 5 人いないとだめなようです。来年度は 3~4 人になるので送迎バスはなくなると聞いています。

(市長)

保育園の送迎バスの件については確認させてください。(※①最終ページをご覧ください)
小中一貫校については小学校と中学校が一緒になるわけですから、まとまって活動でき

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」 【名立区】意見交換の内容

る生徒数は増えるというメリットがあります。ただ、果たしてそれが将来的にずっと効果を保てるのかという問題があります。名立区で昨年度に生まれた子どもの数は2人でした。そうすると、将来的には小学校と中学校を合わせても10人程度になることもあり得るわけです。その場合、いくら小中一貫校にしても意味がなくなると思います。例えば、小学校30人、中学校30人といった程度の規模であれば、過渡的にスケールメリットはあるかもしれませんが、人数が少なくなった場合に児童・生徒自身にとってどんな教育が一番望ましいのかをきちんと考える必要があると思います。統合は一つの方策だと思いますし、最近の技術でいわゆるリモートで授業をするなど、いろいろな解決法が今後は考えられます。小中一貫校にすることだけが必ずしも解決法にはならないと感じています。

（総務部長）

市として、統合ありきで話はいたしません。教育委員会としては、あくまでも子どもたちにとって最適な学習環境・教育環境がどういうものかを考え、その最適な形をお勧めしたいと考えています。その先に、複式学級の解消ということで、統合や小中一貫校という方策ももちろんあると認識しています。一方で、小中学校は地域の核、コミュニティの核でもありますので、まずは学校や教育委員会から、今の状況、あるいは将来の状況についてご説明した上で、地域や保護者の皆さんからご意見をいただきながら、その話し合いの中で最適な答えを求めています。また総合事務所あるいは教育委員会の方からお話しさせていただく機会があるかと思いますので、その時はぜひ一緒に考えていただけたらと思っております。

（市長）

補助制度に関するご意見もいただきましたが、例えば入学時の学用品に対する補助制度のほか、小学校の給食費を無償化するなど、児童・生徒に支援できることは一定程度実施していると思います。

また、交通手段の問題は本当に大事な話で、学校や保育園の通園・通学に限らず、病院への移動なども含まれます。医療再編に伴い、遠くから通わなくてはならない場合の交通手段をどうするかは大問題です。医療再編に当たっては、通院する皆さんの交通手段の確保をセットでしっかり考える必要があると思います。小学校、中学校、保育園、幼稚園についても同様にきちんとやっていきたいと思っております。

（名立区総合事務所長）

学校の関係では、当市が先導してきた青少年育成会議、名立区では「名立の子どもを守り育む会」がありますので、学校運営協議会と合わせて一緒に進めています。その場を活用しながら、皆さんと意見交換できればと考えていますので、お声掛けした際はよろしくお願いします。

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【名立区】意見交換の内容

（参加者）

資料の「若者にとって魅力のある企業の誘致」という点についてお尋ねします。例えば、大学生や大学院生はある程度の時期になると就職活動が始まると思います。そうした若者たちに、上越市の企業を選んでもらうような働きかけや、魅力ある企業の誘致など、具体的に取り組んでいることがあれば教えていただきたいです。

（市長）

商工会議所と市が合同でセミナーを行っているほか、市内の企業を紹介するパンフレットを作っています。その点については、最近特に力を入れて取り組んでいます。

（総務部長）

商工会議所で会社説明会を開催しており、学生や大学生に案内しています。また、地元の企業にインターンに来てもらえるよう、企業に協力しながらインターンシップの受け入れ態勢を整えているところです。あわせて、情報を発信し、多くの人に当市の企業の良いところを知ってもらう活動についても検討しているところです。

（市長）

あとは、若者に人気があるという点では、いわゆる IT 関連産業の誘致に力を入れています。当市に進出した企業に対しては 3 年間家賃を補助するなど、補助制度も整備しています。

（参加者）

1 年前に県外から移住してきました。上越の魅力がたくさんある、とても素敵な地域だと思っていて、今の仕事をとても楽しんでいます。インターンシップの話がありましたが、私の勤務先では、直江津港にあるライトシップ高等学院の高校生に向けた PR 活動を行っています。今年、説明会に参加し、7 月から一人の受け入れが決まりました。まずは地域の高校生や子どもたちから、自分たちの地域が魅力的だと感じてもらい、この会社で働きたいと思ってもらえるように、PR できる場が増えていくといいと思います。

（市長）

今ほど話が出ましたライトシップ高等学院というのは、直江津港佐渡汽船ターミナルの中にあるデュアル教育のことで、高校生を対象に週に 3 日ないし 4 日、実際の地元企業でアルバイトという形で報酬をもらいながら研修し、残りの 2 日か 3 日は普通の勉強をする

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【名立区】意見交換の内容

というシステムです。通信制教育ですが週に1回は登校し、他は通信で学ぶというユニークな学校です。実際に研修を受けた企業にそのまま就職してもらうのが理想ですが、そうした新しい職業・就業教育が始まっています。大学生だけでなく、公立の学校でも、高卒・中卒者に対する会社案内にも力を入れており、商工会議所とともに取り組んでおります。就業教育については、そういった観点や方法で、地元の子どもがここに残るように、さらに進めていきたいと思っています。

（名立区総合事務所長）

学校も多様化しており、中学生も夏休み中に実習に受け入れていただくなど、さまざまな場で子どもが地元に関わる取組が進んでいます。

（参加者）

名立区は65平方キロメートルの面積がありますが、中でも不動地区はその半分の面積を有しています。しかも民有林だけで、国有林などの公有林はありません。市の水源涵養地域も約30平方キロメートルに及ぶのではないかと思います。上越市民の水道水源でもあり、大きなブナ林を含め水に恵まれた地域です。今困っているのは、広域基幹林道・南葉山線を塞ぐ大きな地すべりです。担当課から国・県に申請してもらっていますが、未だ着手されておられません。あわせて、この渇水期に向けて山腹に農業用水路が通っているのですが、全く復旧されていない状況です。仮設の水路がありますが、水量が全く足りていません。空梅雨で目に見えて水が不足しているのが分かります。林道自体は、地滑りで滑ってきた土砂部分だけが林道上に堆積している状態なので、排土はできると思いますが、用水路についても渇水期ですので何とかしてほしいというのが、地元の切実な願いです。市や県にもお願いしていますが、農業活動や林業活動ができていけませんので、何とか早く手立てしていただきたいです。

（市長）

私が把握している範囲では、今年7月下旬から8月上旬にも国の予算で着手すると承知しています。総合事務所のほうから詳細を説明します。

（名立区総合事務所長）

市の担当課からは、国の方で今、林野庁と財務省と交渉しており、早ければ7月中にまとまり、工事がお盆明けくらいになるという連絡が来ています。総合事務所としても地元の皆さんの要望どおり、なるべく早く進めてほしいとお願いしている段階です。

（市長）

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【名立区】意見交換の内容

今年中には何とかなる見込みですか。

（名立区総合事務所長）

その見込みです。ただ、例年ですと 9 月になりますと今年度の間伐が本格的に始まります。農業用水が災害に巻き込まれて被害を受けており、当面、出穂期に水が不足することから農業用水の復旧を進めてほしいということです。仮復旧はしていただいたのですが、水がまだ十分に来ていないという状況です。引き続き、担当課に伝えていきたいと思います。

（参加者）

すでに出穂が始まっていますので、できるだけ早く対応をお願いします。また、取水の関係で別の方法がないか検討していただきたいです。

（市長）

至急、検討させていただきます。

（参加者）

新潟県だけでなく全国的に見てもクマの被害が多いですが、市ではどのような対策を行っているのでしょうか。また、現在の推定頭数を把握しているのでしょうか。名立区でもクマが出ることがあります。放送で「クマが目撃されました。注意してください」と呼びかけるだけでは十分な対策とは言えないと思います。クマ対策をどうしているかというのが一つ目の質問です。

私は名立区の南部に住んでおり、山へ行くときは、ヘルメットをかぶって、なたを腰につけて、携帯電話を持って行きます。先日、名立駅の近くにクマが出ましたが、万が一、遭遇してしまっても携帯電話はすぐつながります。私が住む地区は、民家から 300 メートルほど上へ上がると、もう携帯電話が通じません。東側は有間川の奥で土口、南側に行くと中郷区に面しています。山間部は同じような問題、懸念があるのではないかと思います。もしクマに遭遇してケガをした場合、連絡が取れる場所まで自力で降りてこないといけません。携帯電話があるのに使えないということです。土口でも中郷区でも同じだと思いますので、無線設備を立てて通信網を確立し、山間部エリアの通信を良くしてほしいです。大変な工事だと思いますが、できない仕事ではないと思います。

先ほどの意見にもあった地すべり災害現場で、仮設配管の通水テストに私を含む三人が立ち会ったのですが、県の職員が一人で来られました。私たち三人がいなかったら、その職員は一人でこの山の中で現場を確認することになります。仮にそこにクマが出てケガをしても連絡をとる術がありません。そういった時にも早急に連絡が取れて救急車を呼んで病院に連れて行けるようになれば、捨てないで済む命を守れるかもしれません。ぜひ通信網を整備してほしいです。

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【名立区】意見交換の内容

（参加者）

私が住む地域はイノシシよりも鹿が多く出ます。数年前までは、イノシシが春先にたくさん来て、辺り一面掘り返されていたのですが、今は鹿が多くて、植えている桜の苗木が結構食べられてしまいます。クマも、5年ほど前に足跡があって調査してもらったことがあります。

（参加者）

家の前をクマが横切って畑の方に歩いていったのを見たので怖いです。

（市長）

大型鳥獣に対する対策ですが、市としては大きく三点実施しています。一点目は捕獲対策で、春先に捕獲可能な個体は捕まえるということです。二点目は出没を抑制するための環境整備で、例えば、川や林の草を刈るといったことです。三点目は、人身被害の未然防止や出没時の対応・啓発です。例えば、林に入るときは音の出るものを身につける、一人で行かないようにする、そういった被害を防ぐための啓発を行っています。また、市における各区のパトロール体制について、これまでは各区が独立してパトロールを行っていたのですが、それでは職員体制が回らないということで、複数の区をグループにして職員が交代で行う方式にしました。その結果、パトロールできる人数も1回当たり3～4人に増えました。あとは緊急銃猟ですが、市街地に出た場合は市長の許可で駆除ができる体制も整えています。さらに細かい点として、市の環境担当課と農業担当課で一部職員を併任し、情報が密につながるような体制を4月から整えています。このような体制で臨んでおり、それで万全とは言えないかもしれませんが、県や国と意見交換をして臨んでいます。

通信網につきましては、民間事業者の管轄であり、市単独ではなかなか難しいです。ここだけではなく、安塚区、大島区でも同じ問題がありますので、簡単にはいきません。皆さんには先ほども申し上げたように、一人で山に入らないことや、音の出るものを持っていくなど、できるだけ自衛していただくのが当面の対策だと思います。

（名立区総合事務所長）

携帯電話は衛星経由で使えるようになっていきます。機種にもよりますが、有料または無料で各キャリアが衛星経由で使えると思いますので、皆さんに改めて情報提供をさせていただきます。

（参加者）

私は名立区の戦没遺族会に携わっています。戦後まもなく行政の指導で遺族会を立ち上げ、戦没者の御霊を慰めるために忠魂碑を南部と北部にそれぞれ1基、計2基を建立して

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【名立区】意見交換の内容

います。遺族会は、当然新しい会員が増えるわけではないため、会員がだんだん減少しています。

上越市には連合遺族会というものがあり、合併当時は 33 支部があり、会員も 3,000 人近くいましたが、現在は 6 支部しかなく、会員も 368 人しかおりません。名立区の遺族会も発足時は 200～300 人いたのですが、今は 60 人しか会員がいません。当然、将来的には解散しなければならない時期が来るわけですが、そこにおいて、残された忠魂碑をどうするかというのが、今の我々遺族会の中で非常に問題になっています。その点について、市長はどのような認識をお持ちでしょうか。明日、名立区での法要に市長からも出席いただきますので、可能であればお話をさせていただきたいと思います。皆さんからも、名立区において戦争で尊い命を亡くされた 225 人の方がおられることを意識していただければと思います。

（名立区総合事務所長）

忠魂碑は遺族会が所有しているということですか。

（参加者）

それが、資料がないため詳しく分からないのです。

（市長）

今後、遺族会が解散していくときに忠魂碑をどう保存していくかというのは、名立区以外のところも共通の問題だと思いますので、調べさせていただきます。もちろん大事な忠魂碑ですので、何らかの保存の方法は進めていかないといけないと思います。

（名立区総合事務所長）

担当課に確認いたします。（※②最終ページをご覧ください）

（参加者）

私たちは地域の住民組織として、この地域の地域振興と活性化に向けて何ができるかを常に考えながら取り組んでいます。昨年、名立区の皆さんがこれから安心して暮らしていくために何が必要かを確認する「ないものねだり実現作戦」というアンケートを実施し、取り組んでまいりました。冒頭に市長から、人口減少のスピードを緩めること、生活の質を維持・向上を図るといった話がありました。そのためには、振興と活性化が必要だと思いますが、その一歩手前の生活基盤の整備が名立区をはじめ 13 区で共通の課題ではないかと思います。先ほどから意見に出ている学校や保育園、医療施設だけでなく、各種の会合の場、それから公共交通など、様々な課題があります。非常に脆弱な生活基盤の中で暮らしていると感じています。今後も安心して暮らしていくために、そうしたことをこれからどのような形で行政が考えていくのか、後期総合計画の見直しや、地域独自の予算事業

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」 【名立区】意見交換の内容

の中で地域ビジョン策定が挙がっていると承知していますが、上越市全域の大きなテーマとしての整備の仕方があるとしても、それをもう少しブレイクダウンして、13区や例えば名立区では地域づくりをどう進めていくのか、私たち地域の人間に見える形で示していただけないか、という点を今後の検討に当たり住民組織として要望いたします。

（市長）

地域ビジョンについては作成のプロセスに入っています。地域の皆さんの意見をお聞きし活かして作っていきたいと思っています。繰り返しになりますが、名立区については自然資源・天然資源を活用していただくとよいと思います。病院や学校については先ほど申し上げたとおりです。全体としては企業の活動から税収を確保して、市の予算の中で各区に配分していくのが基本だと思っています。それをどのように活用していくかについては、皆さんの意見を聞きながら進めていきたいと思っています。

（名立区総合事務所長）

総合事務所としても皆さんと連携しながら進めていきます。

（参加者）

財源はいくらあっても足りないと思います。カットすべきものはカットして、廃止すべきものは廃止しないと上越市は生き残れないと思います。何でも要望を聞けばいいというものではないと思います。

（市長）

何でもお聞きしているわけではありません。今まさに今後の財政計画についても検討しています。人口が縮小していく中で、どの仕事やどの組織を残すのかといった観点で検討しています。例えば、各地区に温浴施設がありますが、施設に要する費用に対し、地域の健康や福祉への効果が見合っているか、といったことも検討を始めています。これは一例ですが、ご意見のとおり選択と集中をきちんとやっていくという考えで進めています。

P.4 ※①

当該私立園においては、市から運行に係る経費の補助を受け、通園バスを運行してきましたが、利用見込み児童数の減少等に伴い、保護者に説明するとともに、保護者会総会において合意を得た上で令和9年度より通園バス運行を取りやめることとなりました。

P.10 ※②

忠魂碑等の管理は、建立者が維持管理することが原則であり、現時点で市が一元的に管理する予定はありませんが、国の補助金を活用した慰霊碑の埋設処分等については担当課にご相談ください（ただし、国の補助金活用には要件があります）。